

ブックレビュー



『前人未到』

藤井聡太・山中伸弥 著

講談社 刊

定価 742円 (本体 680円+税)

『挑戦 常識のブレーキをはずせ』(2021年)が改題され、手軽な文庫になった。年齢差40歳。異分野の垣根を超え、「まだ誰も見たことのない景色」に挑み続ける2人の天才の対談だ。閉塞した時代を生きる人たちに、明るく前向きな生き方を示してくれる。実践に裏打ちされたメッセージが、元気とやる気、本気と勇気を与えてくれる。

藤井は2002年生まれの棋士である。数々の新記録をつくり、2023年、将棋界史上初の8冠を達成した。1962年生まれの山中も著名だ。2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞したiPS細胞研究の泰斗である。世代と分野が異なる天才同士の語りだからおもしろい。

山中 うまくいかないことや、一見良くないことが起こったその時こそ「いや、これはチャンスかもしれない」と思う。一方で、調子がいい時は、

「次は大変なことが起こるかもしれない」と用心する。(中略)一喜一憂しない。失敗を恐れず挑戦する。やらずに後悔するよりは、やって失敗するほうがいいですよ。(中略)

藤井 リスクを取ることを厭わないようにというのは、自分でも一つ意識していることです。たとえば、考えている中で二つの候補手があって、一つはうまく行けば勝ちにつながるけれど、逆に読み抜けがあったら負けになってしまうような手。もう一方が、すぐには負けられないけれど、なかなか勝つのも大変だという手。二つあった時に、最初のきわどい変化のほうをしっかりと読んでいこうという、そういう意識は持っています。

全6章の構成で、「限界を自分で決めない」「今できるベストを尽くす」「自らの可能性を広げる」「負けから学ぶ」「AIが常識というブレーキをはずす」「強くならなければ見えない景色」と続くフランクな対談が息を継がせない。
(山海野 玄)